

氏名	神 野 禎 次		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2513 号		
学位授与の日付	平成 4 年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	大動脈弁膜症における左室心筋の組織構造変化と心機能との関係 に関する研究 —特に心肥大と心機能の可逆性について—		
論文審査委員	教授 菅 弘之	教授 原岡 昭一	教授 古元 嘉昭

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

大動脈分狭窄症 (AS), 閉鎖不全症 (AR) を対象として左室心筋組織の定量・半定量形態学的評価を行い, 術前後の左室収縮能および拡張能との関連を検討し, 以下の結論を得た。1) ASにおいては, 左室心筋の変性所見はARに比べて軽度であった。ASの求心性心肥大は主にmyofibrilsの増加による心筋細胞横径の増大によるもので, 間質のfibrosisの関与はあまりみられなかった。術前および術後遠隔期においてLVMIは $-V/Dd, +V/Dd$ とそれぞれ負の相関がみられた。さらに術前LVMI $\geq 300\text{g}/\text{m}^2$ , Diameter $\geq 30\mu\text{m}$ では $+V/Dd$ は術後遠隔期に正常域に回復し得なかった。2) ARにおいては左室心筋の変性所見はASに比べて高度であった。ARの遠心性心肥大における心筋重量の増大には, 間質のfibrosisの程度が大きく関与していた。術前および術後遠隔期においてLVMIは $-V/Dd, +V/Dd$ とそれぞれ負の相関がみられた。さらに術前LVMI $\geq 300\text{g}/\text{m}^2$ , %Fibrosis $\geq 16\%$ では $-V/Dd$ および $+V/Dd$ は術後遠隔期に正常域に回復し得なかった。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は心臓外科領域における大動脈弁膜症の心筋組織構造変化と心機能に関する臨床的研究である。大動脈弁狭窄症と閉鎖不全症を対象として左室心筋組織の形態学的評価と, 術前後の左室収縮, 拡張能との関連を調べた。その結果重要な新知見が得られたものとし

て価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。